

平成 28 年度 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

## 「第5回中堅職員研修」

平成28年12月8日(木) 会場名:青森県総合社会教育センター 第1研修室

生涯学習・社会教育関係職員研修講座「第5回中堅職員研修」を、12月8日(木)当センターにおいて25名の受講者で実施しました。

この研修は5つの分野を設け、関係職員等の資質向上のため、企画力向上と専門的な技術習得を主なねらいとしており、今回は「家庭教育」の分野として行いました。

午前は、研修のテーマを「地域の子育て支援の役割と課題」とし、支援するためには、子どものことを「まずは知る。そして理解する。」というスタンスでの実施でした。

青森中央短期大学 幼児保育学科 専任講師 松浦 淳 氏 を講師にお招きして御講演いただきました。また、午後には、引き続き松浦氏による演習を行いました。

### 1. 講演:【テーマ】「地域の子育て支援の役割と課題」

午前中は、松浦氏より『寄り添う』ことをキーワードに、子どもを理解し、支援する“立ち位置”や“流れ”をお話いただきました。

私たちの立ち位置は、保育者として・親として・周りを助けたい・どうしたらいいかわからない……と様々で、まずは、その認識から始まるとのことです。寄り添うことの意味においては、私たちにとっては「子どもを知ること」で、子どもたちにとっては「信頼感の獲得」、子どもを相手にする仕事においては「常に立ち戻るべき基本」だとおっしゃっていました。

トラブルが起きた時の支援までの流れは、「問題を分析し理解する」で、普段から寄り添って子どもを理解していれば、子どもからの「信頼」も得られるので「具体的な支援」が可能になるとのことでした。これが、現象のみに反応して怒ったり押さえ込もうとしたりすれば、本当の背景を知らないままになってしまい、寄り添うことにはならないということです。

また、多様性に応じたかわり方の基本的なアプローチは、「一つずつやる」、「環境を整える」とのことです。受講者のみなさんは、具体的な対応を知っておくことの大切さを感じながら、真剣に聞き入っていました。

【講義の様子①】

【講義の様子②】

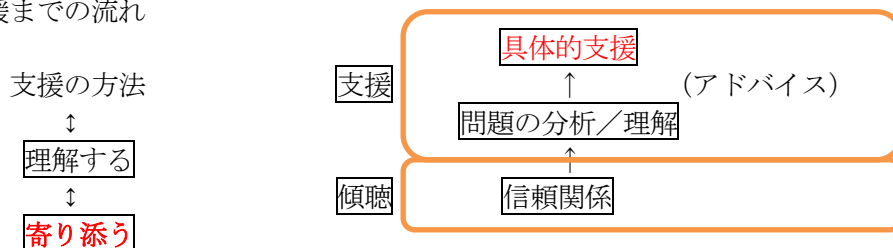


## 【概要】

○立ち位置 … 「私」が今、ここにいる理由 ～ 保育者・親・周りを助けたい・わからない ※自己認識

○寄り添うことの意味は？ ～ 私たちにとって：子どもを知る ← 教育や保育の基盤  
子どもたちにとって：信頼感の獲得 ← 挑戦・成長の基盤  
仕事において：常に立ち戻るべき「基本」

○支援までの流れ



※ 背景に目を向けよう ☆ 本当は～がしたかった・表現方法が他にない

○多様性に応じたかかわり方

「一つずつやる」… 丁寧に理解できるように相手の気持ちを考えて

「環境を整える」… 落ち着ける環境

○5つの視点 ～ ・視覚的情報を有効に ・見通しを持たせる ・「ダメというだけ」ではダメ

・メリハリをつけて淡々と ・メッセージを読み取る

## 2. 演習：「みんながわかる・かわる・そだつ」

午後は、「地域でのイベント実施」を計画する際に、気になる子どもなど多様性に応じた関わりかたを考える演習を、午前に引き続き松浦氏を講師に行いました。

始めるにあたって、「連携」の解釈と「連携が破綻する」言われたくない言葉などのレクチャーがありました。

そして、3枚のインテークシートに「それぞれに特徴を持つ子どもの個人情報（※架空のもの）」があり、グループごとに一人の子どもについて対応を考えながら、「地域イベントにどのように参加させるか」を話し合うものでした。個人情報から子どもの特徴を個々に分析し、それを発表し合っグループ全体の対応を考えるというのは、大変そうでしたが、こうした緻密な対応が大切だということも受講者それぞれが実感していました。

### 【グループ演習の様子】



## 3. 受講者の感想

- ・自分自身を見つめ直す機会になりました。仕事でも生かしていきたいです。
- ・今までの講師とは違う視点・切り口が新鮮で、有意義に感じました。
- ・このような支援の必要なお子さんに関わったことがなかったので、わからないことばかりで難しかったですが、こういった場合の基本的な知識について、もっと学びたいと興味を持つことができました。
- ・自分自身が救われた気がします。自分も誰かの理解者になればと思います。
- ・「成長や発達子どもだけのものではない。支援者や家族も成長する。」「思いと願いに触れられる支援者」という言葉がとても印象に残りました。
- ・どうしたらいいか具体的に示すその方法や、論しながらできたら褒めるという手順がよくわかりました。行動、言動の背景・裏にあるものを考えるということ学びました。